

わたしから始まる高知の食育

～毎月 19 日は「食育の日」～



一年を通じて、「旬」を体感できる新鮮食材の宝庫であり、地産地消と食育の格好のフィールドでもある「土佐の街路市」。全国的にも有名になり、観光客も多く訪れています。

1989年に始まった「平成」も残りわずかとなった今回は、「日曜日」を中心に、街路市の歴史をご紹介します。

街路市のはじまりは江戸時代から

高知市の街路市は、土佐藩第四代藩主の山内豊昌公の時代、元禄 3 年（1690 年）に、藩の政策として場所と日取りを定めて市立を認めたことに始まるとされています。

太陽暦の採用後、明治 9 年（1876 年）に官庁が日曜休日、土曜半休になったことに伴い、それまでの定日市が曜市に変更され、今日の「日曜日」が誕生しました。



●明治初期の街路市

昭和、平成、そして次の時代へ

第二次世界大戦によって一時休止状態になりましたが、昭和 23 年（1948 年）に追手筋で「日曜日」が復活。昭和 30 年代後半から 40 年代前半にかけては、自動車や量販店の普及などに伴い、「日曜日」の移転や廃止について多くの議論を呼んだこともありました。市民、県民の「生活市」として根差し、今日では、全国に誇る歴史と規模により観光資源としても重要性を増しています。

貴重な街路市を私たちが次の時代へとしっかりとつないでいきましょう。



●昭和 30 年代の日曜日

